

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読 I a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> ヨブ記のヒブル語本文を読む。</p>	
<p><授業の概要> BHS を用いて、神がヨブに現れ語ったヨブ記 38－40 章の詩文を読む。写本や古代語訳も参照する。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法習得者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：ヨブ記 38:1-6 第 3 回：ヨブ記 38:7-13 第 4 回：ヨブ記 38:14-19 第 5 回：ヨブ記 38:20-25 第 6 回：ヨブ記 38:26-30 第 7 回：ヨブ記 38:31-35 第 8 回：ヨブ記 38:36-41 第 9 回：ヨブ記 39:1-6 第 10 回：ヨブ記 39:7-13 第 11 回：ヨブ記 39:14-19 第 12 回：ヨブ記 39:20-25 第 13 回：ヨブ記 39:26-30 第 14 回：ヨブ記 40:1-6 第 15 回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> あらかじめテキストを読み、きちんと予習して授業に参加すること。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS),</p>	
<p><参考書> 辞書は、F.Brown, S.R.Driver and C.A.Briggs, Hebrew and English Lexicon of the Old Testament .(BDB) BHS の手引きとして、『ヘブライ語聖書への手引き』（ウォンネベルガー 松田訳）などを用いる。また、岩波版旧約聖書『ヨブ記』（並木訳）を参照する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読Ⅱ a	左近 豊
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書ヒブル語本文を読む。テキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特長を把握することを目的とする</p>	
<p><授業の概要> エレミヤ書と哀歌を取り上げる。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られた言葉であり、旧約聖書の人間観、世界観、そして歴史観を反映している。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読む。教会での説教、聖書研究における釈義に資する諸資料の紹介と活用を実際を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語文法履修者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：エレミヤ書 序 1:1-3 第2回：エレミヤ書 1:4-8 第3回：エレミヤ書 1:9-10 第4回：エレミヤ書 1:11-13 第5回：エレミヤ書 1:14-16 第6回：エレミヤ書 1:17-19 第7回：エレミヤ書 2:1-3 第8回：エレミヤ書 2:4-6 第9回：エレミヤ書 2:7-9 第10回：エレミヤ書 2:10-13 第11回：エレミヤ書 2:14-16 第12回：哀歌 1:3~5 第13回：哀歌 1:6~7 第14回：哀歌 1:8~11 第15回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 事前に当該箇所の上の諸問題を把握し、神学的思索を携えて授業に臨むことが望ましい。</p>	
<p><テキスト> <i>Biblia Hebraica Stuttgartensia</i> (BHS)</p>	
<p><参考書> 辞書:F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs eds., <i>Hebrew and English Lexicon of the Old Testament</i>. (BDB)、 L. Koehler and W.Baumgartner, <i>The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament (HALOT)</i>、 文法書:<i>Gesenius' Hebrew Grammar</i>, B.Waltke and M.O'Connor, <i>An Introduction to Biblical Hebrew Syntax</i>, H.Bauer and P.Leander, <i>Historische Grammatik der hebraeischen Sprache</i>. 参考書:ヴェルトヴァイン著『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i>、『左近淑 著作集 III』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebraeischen Alten Testament</i>, S.Mandelkern, <i>Veteris Testamenti concordantiae hebraicae atque chaldaicae</i>, E.Hatch and H.A.Redpath, <i>A Concordance to the Septuagint and the other Greek Versions of the Old Testament</i> (LXX) など</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業参加 40% 期末レポート 60%</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読Ⅱ b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> ヨブ記のヒブル語本文を読む。</p>	
<p><授業の概要> BHS を用いて、ヨブ記 40－42 章の詩文を読む。写本や古代語訳も参照する。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法習得者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：ヨブ記 40:7-13 第 3 回：ヨブ記 40:14-19 第 4 回：ヨブ記 40:20-25 第 5 回：ヨブ記 40:26-32 第 6 回：ヨブ記 41:1-5 第 7 回：ヨブ記 41:6-12 第 8 回：ヨブ記 41:13-17 第 9 回：ヨブ記 41:23-26 第 10 回：ヨブ記 42:1-6 第 11 回：ヨブ記 42:7-9 第 12 回：ヨブ記 42:10-12 第 13 回：ヨブ記 42:13-17 第 14 回：特別講義 第 15 回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> あらかじめテキストを読み、きちんと予習して授業に参加すること。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)</p>	
<p><参考書> 辞書は、F.Brown, S.R.Driver and C.A.Briggs, Hebrew and English Lexicon of the Old Testament .(BDB) BHS の手引きとして、『ヘブライ語聖書への手引き』（ウォンネベルガー 松田訳）などを用いる。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義Ⅱ a	本間 敏雄
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 創世記48-50章のヤコブ・ヨセフ物語をヒブル語本文（マソラ本文）において釈義する。</p>	
<p><授業の概要> 族長物語の最後に位置する創世記48-50章のヤコブ・ヨセフ物語を、構文論と本文批判、伝承史等釈義的諸方法を学びつつ釈義する。ヒブル語本文の諸現象に留意し、テキスト理解を深めたい。印刷聖書（BHS）及び写本（L：レニングラード写本）とマソラの基礎知識も学ぶ。後期課程「旧約聖書原典特殊研究 a」と合同。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法修得者</p>	
<p><授業計画> 第1回：創世記48：1-4 病床のヤコブ 第2回：創世記48：5-10 ヨセフの子 第3回：創世記48：11-14 マナセとエフライムの祝福（1） 第4回：創世記48：15-16 " (2) 第5回：創世記48：17-22 " (3) 第6回：創世記49：1-7 息子たちの祝福（1）ルベン、シメオン、レビ 第7回：創世記49：8-12 " (2) ユダ 第8回：創世記49：13-21 " (3) ゼブルン、イサカル、ダン、ガド、アシェル、ナフタリ 第9回：創世記49：22-28 " (4) ヨセフ、ベニヤミン 第10回：創世記49：29-33 ヤコブの死 第11回：創世記50：1-6 ヤコブの埋葬（1） 第12回：創世記50：7-14 " (2) 第13回：創世記50：15-21 兄弟たちとヨセフ 第14回：創世記50：22-26 ヨセフの死 第15回：ヤコブ・ヨセフ物語総括</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本(Codex Leningradensis) 写真版。辞書：Holladay、専門的なものは Gesenius、BDB 或いは HALOT (HALAT)。「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近／本間)(10. 文の構造(構文論)、12 補説：本文の諸現象(補注一覧))。</p>	
<p><参考書> 「旧約聖書の本文研究」(E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳)、「旧約聖書釈義入門」(H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳)。「ヘブライ語聖書への手引き」(R.ウオンネベルガー 松田伊作訳)、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger). 諸文献は順次提示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義Ⅱb	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 創世記1, 2章の天地創造物語を、ヒブル語本文(マソラ本文)において釈義する。</p>	
<p><授業の概要> 創世記1, 2章には2つの天地創造物語がある。構文論及び本文批判、伝承史等釈義的諸方法を検討しつつ釈義する。ヒブル語本文の諸現象、写本とマソラに留意し釈義し、それぞれのテキストの神学を探る。五書研究史と諸方法、特に資料説、伝承史に関連する1, 2章の意義も学ぶ。後期課程「旧約聖書原典特殊研究b」と合同。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法修得者</p>	
<p><授業計画> 第1回：創世記1：1－2 天地の創造 第2回：創世記1：3－5 第一日 光 第3回：創世記1：6－8 第二日 大空 第4回：創世記1：9－13 第三日 地と海、植物 第5回：創世記1：14－19 第四日 光るもの 第6回：創世記1：20－25 第五、六日 生き物 第7回：創世記1：26－28 第六日 人間 第8回：創世記1：29－31 食物 第9回：創世記2：1－3 第七日 安息日 第10回：創世記2：4－6 地 第11回：創世記2：7－9 人間 第12回：創世記2：10－14 四つの川 第13回：創世記2：15－17 戒め 第14回：創世記2：18－20 結婚(1) 第15回：創世記2：21－25 // (2)</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本(Codex Leningradensis) 写真版。辞書：Holladay、専門的なものは Gesenius、BDB 或いは HALOT (HALAT)。「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)(10. 文の構造(構文論)、12補説：本文の諸現象(補注一覧))。</p>	
<p><参考書> 「旧約聖書の本文研究」(E.ヴェルトヴァイン 鍋谷/本間共訳)、「旧約聖書釈義入門」(H.バルト/O.H.シュテック 山我哲雄訳)。「ヘブライ語聖書への手引き」(R.ウォンネベルガー 松田伊作訳)、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger)。諸文献は順次提示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特講 I a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 黙示文書として知られるダニエル書を取り上げ、この書と祭儀の関係についてあらゆる視点から考察する。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語を履修していない者も参加できる。ダニエル書について深く学びたいと思う者。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：ダニエル書総論、ダニエル書とはどういう書か。 第3回：ダニエル書1章 第4回：ダニエル書2章 第5回：ダニエル書3章 第6回：ダニエル書4章 第7回：ダニエル書5章 第8回：ダニエル書6章 第9回：ダニエル書7章 第10回：ダニエル書8章 第11回：ダニエル書9章 第12回：ダニエル書10章 第13回：ダニエル書11章 第14回：ダニエル書12章 第15回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回、ダニエル書を1章ずつ釈義し、それに基づいて「祭儀」との関係について討議する。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書を用いるが、和洋の注解書をも参照する。</p>	
<p><参考書> その都度、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 各章をレポートしていただき、また学期末にダニエル書について提出レポート（6000字）によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特講 I b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 旧約聖書におけるイスラエル 12 部族のありようと諸部族の歴史について考察する。演習形式で行う。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語を履修していない旧約専攻外の学生に開かれた授業である。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：「イスラエル」について 第 3 回：創世記 49 章 第 4 回：申命記 33 章 第 5 回：イスラエル 12 部族連合について 第 6 回：ユダ族 第 7 回：ベニヤミン族 第 8 回：ヨセフ族（マナセとエフライム） 第 9 回：レビ族 第 10 回：ルベン族、シメオン族、ゼブルン族 第 11 回：イサカル族、ダン族、ガド族 第 13 回：アシェル族、ナフタリ族 第 15 回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回担当者に発表していただき、それに基づいて全員で討議する。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書</p>	
<p><参考書> 並木浩一「イスラエル部族表における十二部族組織の展開」『古代イスラエルとその周辺』（新地書房）。そのほかについては、その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への積極性、また学期末の提出レポート（約 6000 字）によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研Ⅱ a	魯 恩碩
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書形成の歴史と聖書解釈の歴史に対する理解を深めるための特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 今学期は、アレクサンドリア学派のアレゴリカルな解釈、アンティオキア学派のディポロジカルな解釈、アウグスティヌスやトマス・アクィナスなどによる四重の解釈、近代以降の歴史批評学的解釈などの様々な聖書解釈の方法を検討する。その後、講師の拙著である『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』を読みながら旧約聖書形成史に関する最近の研究動向を把握する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 緒論的問題 3. Origen の聖書解釈 4. Diodore の聖書解釈 5. Augustine の聖書解釈 6. Luther と Calvin の聖書解釈 7. Spinoza の聖書解釈 8. Wellhausen の聖書解釈 9. 現代聖書学の聖書解釈 10. Qumran 共同体の敬虔性 11. 旧約聖書における審判思想の歴史的発展過程 12. 紀元前 7 世紀から 6 世紀までのユダヤ共同体における社会経済的变化の過程 13. 紀元前 4 世紀の Yehud の政治状況と五書の正典化の関係 14. 「契約の書」の時代背景 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Johannes Unsok Ro 『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』 (Sheffield Phoenix Press, 2013), 学生各自で購入する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> ディスカッションなどによる授業への貢献が 3 割、プレゼンテーションが 3 割、期末レポート (4,000 字) が 4 割。期末レポートは、最終授業日に提出すること。レポートの採点基準は、論理性、独創性、正確性を重視する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係

旧約聖書学特研IIb

大住 雄一

後期・2単位

<登録条件>

<授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究クラスである。

<授業の概要> 今回は、申命記のテキスト釈義を行い、イスラエル存立の基盤になった歴史と、そのような歴史によって今在るを得たイスラエルをそれに相応しく保つための法を明らかにする。

<履修条件>

<授業計画>

1. はじめに 「五千人の給食 四千人の給食」の意味
2. 出エジプト記12:37 60万人とは何の数か
3. 十二部族
4. マルティン・ノート 「千」とは1000か
5. 「千代に及ぶ祝福」
6. 民数記1章の数
7. 民数記7章の捧げものの目録
8. エズラ記2章の数
9. 列王記上8章の捧げもの
10. ギデオンの軍隊
11. 6年収穫して、7年目には休ませる
12. 6日働いて、7日目は聖なる安息日
13. 「民の数は数えてはならない」
14. 実数と意味
15. まとめ

<準備学習等の指示>

<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia

<参考書> 参考文献はそのつど指示するが、いくつかの註解書を各自選んで常に参照すること。

<学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた報告の内容と、毎回の討論への参加度によって評価する。

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習II a	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書の諸主題、あるいは旧約聖書を読む場合の諸課題を共に学ぶ。ヒブル語を履修していない人、聖書神学（旧約聖書神学）専攻でない人にも開かれた演習である。</p>	
<p><授業の概要> 「律法賛歌」と聞くと、どういうことを考えられるであろうか。「律法」とは、ユダヤ教正典の第一部（五書）のことであり、「律法」と言えば五書に証しされていると考えるであろう。しかし律法とは何であるかを讃美をもって語るのは、詩編である。この度は、詩編から「律法賛歌」を味わう。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語や七十人訳のギリシア語の知識を前提とはしないが、説明をある程度理解する意志と準備学習は求められる。前後期通年履修が望ましい。</p>	
<p><授業計画> 「律法賛歌」</p> <p>I. 詩編1編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. み言葉を口ずさむ 2. 詩編の序 3. 詩編と律法 <p>II. 詩編81編</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 十戒の詩 5. 救済史と律法の授与 6. メリバの試み <p>III. 詩編78編1</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 荒れ野の旅と律法 8. 神の御わざを忘れないように 9. 逆らうイスラエル <p>IV. 詩編78編2</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 天を開く神 11. 民に食べて飽き足らせる神 12. 食べて飽き足らせられた民を裁く <p>V. 詩編19編</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 自然と律法 14. 律法賛歌の意味 15. まとめ 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書> 毎回必要な参考文献を示す。	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業で割り当てられた課題の発表を含む授業参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習IIb	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書の諸主題、あるいは旧約聖書を読む場合の諸課題を共に学ぶ。ヒブル語を履修していない人、聖書神学（旧約聖書神学）専攻でない人にも開かれた演習である。</p>	
<p><授業の概要> 前期「旧約聖書学演習IIa」の続きであるが、後期だけの履修も可。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語や七十人訳のギリシア語の知識を前提とはしないが、説明をある程度理解する意志と準備学習は求められる。</p>	
<p><授業計画> 「律法賛歌 つづき」</p> <p>I. 詩編106編1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 恵み深い主に感謝せよ 2. 慈しみはとこしえに 3. 自然を支配する神 <p>II. 詩編106編2</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 五書と詩編 5. 民の反抗と神の裁き 6. 契約を忘れない神 <p>III. 詩編119編1</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 119編と19編 8. 詩編の全体構造と律法賛歌 9. アルファベートうたの意味 <p>IV. 詩編119編2</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 詩編の全体構造とアルファベートうた 11. 律法と知恵 12. みことばはわが道の光、わが足の灯火 <p>V. 詩編119編3</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 律法を愛すること 14. 詩編第五巻の意味 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> 毎回必要な参考文献を示す。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業で割り当てられた課題の発表を含む授業参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
シリア語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> ペシッタを読むために必要なシリア語の文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画> 第1回：序 シリア語を学ぶ意義等話し、子音について（1）ヤコブ派の書体を学ぶ。 第2回：子音について（2） ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。 第3回：母音について ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。 第4回：代名詞について 人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。 第5回：前置詞について 基本的なものをいくつか学ぶ。 第6回：名詞について（1） 基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。 第7回：代名詞語尾について ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。 第8回：名詞について（2） 母音の移動を伴うものを学ぶ。 第9回：名詞について（3） 不規則変化するものを学ぶ。 第10回：規則動詞について（1） Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。 第11回：規則動詞について（2） Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。 第12回：規則動詞について（3） Ethpeel 形の変化を学ぶ。 第13回：規則動詞について（4） Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。 第14回：規則動詞について（5） Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。 第15回：規則動詞について（6） 代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
シリア語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> シリア語の文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、さらに旧約からエレミヤ書等をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであること並びにシリア語 a 履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：不規則動詞について（1） Pê Nun 動詞の変化を学ぶ。 第2回：不規則動詞について（2） Lamed 喉音動詞の変化を学ぶ。 第3回：不規則動詞について（3） Pê 'alep 動詞の変化を学ぶ。 第4回：不規則動詞について（4） Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第5回：不規則動詞について（5） 二根字動詞の変化を学ぶ。 第6回：不規則動詞について（6） 二重'ayin 動詞の変化を学ぶ。 第7回：不規則動詞について（7） Lamed Hê・Lamed Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第8回：「山上の説教」の講読（1） Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。 第9回：「山上の説教」の講読（2） 原典との比較をしつつ読むことを味わう。 第10回：「山上の説教」の講読（3） シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。 第11回：「山上の説教」の講読（4） シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。 第12回：「山上の説教」の講読（5） シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。 第13回：エレミヤ書等の講読（1） ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。 第14回：エレミヤ書等の講読（2） シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：エレミヤ書等の講読（3） 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学I	大住 雄一 小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要> 論文を執筆することの意味とプロセスを解説し、テキスト研究ならびに二次文献の検索を行う。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係</p>	
<p><履修条件> 2017年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること</p>	
<p><授業計画> 第1回：導入 論文執筆の意味 第2回：課題の見いだし方 律法関係 第3回：課題の見いだし方 預言者関係 第4回：課題の見いだし方 文学関係 第5回：テキスト翻訳 律法関係 第6回：テキスト翻訳 預言者関係 第7回：テキスト翻訳 文学関係 第8回：テキストの構造解明 律法関係 第9回：テキストの構造解明 預言者関係 第10回：テキストの構造解明 文学関係 第11回：辞書、コンコルダンスの使い方 第12回：二次文献の検索方法 第13回：暫定的な文献表の作成 第14回：二次文献の使い方 第15回：方法を使いこなす</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> ビブリア・ヘブライカほか、論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書> 毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題の発表（50%）、討論への貢献（50%）を総合して評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学II	大住 雄一 小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程二年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要> 論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係</p>	
<p><履修条件> 本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること</p>	
<p><授業計画> 第1回：導入 論文執筆の手順 第2回：問題設定 律法関係 第3回：問題設定 預言者関係 第4回：問題設定 文学関係 第5回：研究史 律法関係 第6回：研究史 預言者関係 第7回：研究史 文学関係 第8回：主要テーゼ 律法関係 第9回：主要テーゼ 預言者関係 第10回：主要テーゼ 文学関係 第11回：論証過程 律法関係 第12回：論証過程 預言者関係 第13回：論証過程 文学関係 第14回：結論 第15回：最終的な質疑応答</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書> 毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末には暫定的に合否のみ通知するが、最終的に提出論文の成績が本演習の成績となる。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特講Ⅱ a	中野 実
前期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書学における重要研究課題について学び、その理解を深めることがクラスの目標。今回は、テーマとしてヘブライ人への手紙を取り上げる。</p>	
<p><授業の概要> ヘブライ書の原典から日本語に翻訳するという課題について共に学んでみる。</p>	
<p><履修条件>通年で履修するのが原則。そうでない場合は、事前に担当者と相談すること。</p>	
<p><授業計画> 毎回、担当教員（中野）が用意したヘブライ書の日本語訳および他の日本語訳を、ギリシャ語原典に照らし合わせながら、吟味、検討することが、クラスの具体的内容。毎回担当学生を決め、翻訳を検討する役割を果たしてもらう。その際、本文批評上の問題、単元の区切りの問題、文法上の問題、内容的、神学的問題、日本語の問題などの視点から検討してもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ヘブライ書の緒論 著者問題、成立年代、成立地、宛先など 3 緒論 構成など 4 1 : 1-4 5 1 : 5-14 6 2 : 1-4 7 2 : 5-18 8 3 : 1-6 9 3 : 7-19 10 4 : 1-13 11 4 : 14-16 12 5 : 1-10 13 5 : 11-6 : 3 14 6 : 4-12 15 6 : 13-20 	
<p><準備学習等の指示> クラスにおいて指示する。</p>	
<p><テキスト> 旧、新約聖書（いくつかの翻訳）、ギリシャ語の新約聖書など。</p>	
<p><参考書>必要に応じて、担当者がクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの積極的参加（出席、発表、質問、コメントなど）を求める。出席、分担発表、参加度（40%）、および（5000～6000字の）期末レポート（60%）によって総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特講Ⅱ b	中野 実
後期・2単位	<登録条件>特になし
<授業の到達目標及びテーマ>前期の欄を参照	
<授業の概要>前期と同じ	
<履修条件>前期と同じ	
<p><授業計画>前期の項目を参照。</p> <p>1 7:1-10</p> <p>2 7:11-19</p> <p>3 7:20-28</p> <p>4 8:1-6</p> <p>5 8:7-13</p> <p>6 9:1-10および11-14</p> <p>7 9:15-23</p> <p>8 9:24-28</p> <p>9 10:1-10</p> <p>10 10:11-18</p> <p>11 10:19-25</p> <p>12 10:26-31</p> <p>13 10:32-39</p> <p>14 11:1-40 (11:1-22)</p> <p>15 11:1-40 (11:23-40)</p>	
<準備学習等の指示>必要に応じてクラスで指示する	
<テキスト>前期の項目を参照	
<参考書>必要に応じて担当者がクラスで指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席、分担発表、参加度(40%)と(5000~6000字の)期末レポート(60%)によって総合的に評価する。ただし、出席が3分の2に達しない場合、原則として評価の対象にしない。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特研Ⅱ a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> テサロニケの信徒への手紙一、二積義を通して初期キリスト教の形成、パウロ伝道について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> テサロニケの信徒への手紙一、二の積義。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テサロニケの信徒への手紙一、概説 2. テサロニケの信徒への手紙一、1章 3. テサロニケの信徒への手紙一、2章 4. テサロニケの信徒への手紙一、3章 5. テサロニケの信徒への手紙一、4章 6. テサロニケの信徒への手紙一、5章 7. テサロニケの信徒への手紙一、総括 8. テサロニケの信徒への手紙二、概説 9. テサロニケの信徒への手紙二、1章 10. テサロニケの信徒への手紙二、2章 11. テサロニケの信徒への手紙二、3章 12. テサロニケの信徒への手紙二、総括 13. テサロニケの信徒への手紙一、二 終末論 14. テサロニケの信徒への手紙一、二 レトリック 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 担当する箇所を G.フィー『新約聖書の積義』に従って積義し、発表、検討し合う。</p>	
<p><テキスト>適宜紹介する。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表、議論への貢献等による授業参加、期末課題。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特研Ⅱb	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 使徒パウロの伝道活動とパウロ教会について学ぶ。	
<授業の概要> テキストを講読、批判検討しながら、パウロ書簡、初期キリスト教の形成について学ぶ。	
<履修条件>	
<授業計画> 1. オリエンテーション 2. ミークス序論 3. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 33-64頁 4. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 65-112頁 5. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 144-168頁 6. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 169-190頁 7. ミークス第三章 「教会の形成」 205-246頁 8. ミークス第三章 「教会の形成」 247-280頁 9. ミークスの方法論の検討 10. ミークス第四章 「統治」 301-334頁 11. ミークス第四章 「統治」 335-360頁 12. ミークス第五章 「祭儀」 370-413頁 13. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 423-450頁 14. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 451-471頁 15. 総括 受講者の関心により予定は適宜調整する。	
<準備学習等の指示> 各自、テキストを分担し講読を行う。各回発表担当者は議論の紹介をし、受講者と共に批判検討を行う。	
<テキスト> ウェイン・ミークス『古代都市のキリスト教』加山久夫監訳 ヨルダン社、1989年。現在、絶版なので古本等の入手、図書館所蔵のものを使うことを勧める。	
<参考書> 適宜紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表、議論への貢献等による授業参加、期末課題。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I a	遠藤 勝信
前期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの福音書8～9章(論争)の原典釈義。研究史、釈義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>はじめに、近年のヨハネ福音書研究の動向(研究史、方法論)を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第02回 ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。</p> <p>第03回 テキストの文学批評の実際。</p> <p>第04回 テキストと歴史批評の実際。</p> <p>II. 演習(参加者による釈義の発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 ヨハネ8:12～20(証言)の原典釈義</p> <p>第06回 ヨハネ8:21～29(イエスの起源)の原典釈義</p> <p>第07回 ヨハネ8:30～36(真の自由)の原典釈義</p> <p>第08回 ヨハネ8:37～47(アブラハムの子、悪魔の子)の原典釈義</p> <p>第09回 ヨハネ8:48～59(アブラハムより偉大な者)の原典釈義</p> <p>第10回 ヨハネ9:01～07(盲人の癒やし)の原典釈義</p> <p>第11回 ヨハネ9:08～17(しるしの波紋—その1)の原典釈義</p> <p>第12回 ヨハネ9:18～23(しるしの波紋—その2)の原典釈義</p> <p>第13回 ヨハネ9:24～34(しるしの波紋—その3)の原典釈義</p> <p>第14回 ヨハネ9:35～41(さばき)の原典釈義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年</p> <p>R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年</p> <p>R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年</p> <p>C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol. 1</i>, 2003.</p> <p>M. Endo, <i>Creation and Christology - A Study on the Johannine Prologue</i> (WUNT), 2002. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000文字])。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I b	遠藤 勝信
後期・2単位	<登録条件>原則として通年 (a, b) で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<授業の到達目標及びテーマ> ヨハネの黙示録 12～16 章の原典釈義。研究史、釈義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かう。	
<授業の概要> 近年の黙示録研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。	
<履修条件> 新約ギリシャ語原典テキスト読解力（ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい）を有すること。	
<授業計画> I. 講義を中心に 第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。 第02回 黙示録を読む前に（その1）：黙示録の周辺、背景理解。 第03回 黙示録を読む前に（その2）：構造と構成、神学、他。 第04回 黙示録1～5章までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。 II. 演習（参加者による発表とディスカッション）を中心に 第05回 黙示録12：07～12（天での闘い）の原典釈義 第06回 黙示録12：13～17（地での闘い）の原典釈義 第07回 黙示録13：01～04（海からの獣一その1）の原典釈義 第08回 黙示録13：05～10（海からの獣一その2）の原典釈義 第09回 黙示録14：01～05（贖われた者と小羊）の原典釈義 第10回 黙示録14：06～13（さばきの予告）の原典釈義 第11回 黙示録14：14～20（地の刈り入れ）の原典釈義 第12回 黙示録15：01～08（七つの鉢の準備）の原典釈義 第13回 黙示録16：01～07（怒りの注ぎ一その1）の原典釈義 第14回 黙示録16：08～14（怒りの注ぎ一その2）の原典釈義 III. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。	
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。	
<テキスト> Nestle-Aland (28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>	
<参考書> 佐竹明著『ヨハネの黙示録』（上・中巻）2009年 R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年 R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i> , 1993. G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999. D. Aune, <i>Revelation 6-16</i> (WBC), 1997. S. Smalley, <i>The Revelation of John</i> (IVP), 2005. 他、クラスで随時紹介。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業における発表と期末試験（指定されたテキストの釈義ペーパー[6,000～8,000文字]）。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学 I	中野 実 焼山満里子
後期・2単位	<登録条件>新約神学で修論を書く予定の学生
<p><授業の到達目標及びテーマ>来年度に修士論文を提出する予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習。テーマの選定、論文を書くための技術を身につける事を目的とする。</p>	
<p><授業の概要>論文を書くとはどういう事かを学び、その課題に取り組む準備をするためのクラス。毎回学生の発表などを中心にすすめていく。全体としては二人の教員が共に責任を負うが、それぞれが担当学生との個別指導を織り交ぜながら行うこともある。</p>	
<p><履修条件>2017年9月に修論を提出予定の学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 論文を書くとは？ ③ それぞれの課題、問題探し ④ その課題、問題に関連するテキスト探し ⑤ 課題テキストについて深く学ぶ ⑥ テーマの選定、見直し、決定 ⑦ 研究のための方法および道具について ⑧ 資料、先行研究さがし ⑨ 先行研究の学び 参考文献表の作成 ⑩ 先行研究の学びとそこからの展開 ⑪ 問題設定、テーゼの発見へ向かって ⑫ 問題設定、テーゼの吟味 ⑬ 題名、目次作成へ向かって ⑭ 議論の組み立てへ向かって ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示>論文はモノローグではないので、教師、学生との対話を大切にすること。</p>	
<p><テキスト>必要に応じて、指示する。</p>	
<p><参考書>担当者が必要に応じて、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの出席、課題への積極的参加によって、総合的に評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	中野 実 焼山満里子
前期・2単位	<登録条件>新約神学で修論を書く予定の学生
<p><授業の到達目標及びテーマ>今年度前期末に修士論文を提出予定の大学院二年生で、新約聖書神学専攻の学生のための演習。具体的にそれぞれの修士論文の執筆を助けるような学びをしていく。</p>	
<p><授業の概要>論文の準備段階において、それぞれが研究発表をし、担当者、参加学生の質問、意見などを聞きながら、論文を仕上げていくためのクラス。</p>	
<p><履修条件>2016年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出する予定の学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション 論文執筆の手順などについて ② 問題設定の点検 ③ 資料の点検 ④ 題名、目次、議論の枠組みを整える。 ⑤ より明確な問題設定 ⑥ 序論の執筆 ⑦ 研究史 発表 ⑧ 研究史 点検 ⑨ 論文のテーゼ 発表 ⑩ 論文のテーゼ 点検 ⑪ 議論の組み立て 発表 ⑫ 議論の組み立て 点検 ⑬ 結論 ⑭ 論文のフォーマットの整理：註、文献表など ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示>クラスで指示する。</p>	
<p><テキスト>必要に応じて、指示する。</p>	
<p><参考書>必要に応じて、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの出席、クラスでの課題への積極的参加などによって、総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講 I a	須田 拓
前期・2単位	<登録条件> 学期毎の登録可
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖霊論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、深い教義学の理解を持つことを目指す。</p>	
<p><授業の概要> 聖霊論について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべき聖霊論の姿を模索する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 聖霊論の論点(1) 聖霊の神性と位格性</p> <p>第3回 聖霊論の論点(2) 聖霊の御業</p> <p>第4回 位格としての聖霊(1) カール・バルトの場合とその問題</p> <p>第5回 位格としての聖霊(2) ヴォルフハルト・パネンベルクとユルゲン・モルトマンの場合</p> <p>第6回 位格としての聖霊(3) コリン・ガントンの場合</p> <p>第7回 位格としての聖霊(4) その他の神学者の場合 (ベルコフ、ロジャース、コンガールなど)</p> <p>第8回 中間総括</p> <p>第9回 個人への聖霊の働き(1) バルトの場合</p> <p>第10回 個人への聖霊の働き(2) モルトマン、ヴェルカー、コンガールなどの場合</p> <p>第11回 個人への聖霊の働き(3) その他の神学者の場合</p> <p>第12回 聖霊と教会(1) 三位一体論的教会論 (ミロスラフ・ヴォルフなど)</p> <p>第13回 聖霊と教会(2) スタンリー・ハワーワスの場合など</p> <p>第14回 聖霊と世界</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 特になし</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> レポートによって評価する</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講 I b	須田 拓
後期・2単位	<登録条件> 学期毎の登録可
<p><授業の到達目標及びテーマ> 創造論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、教義学の深い理解を持つことを目指す。</p>	
<p><授業の概要> 創造論について講義する。古来からの論点を整理した上で、現代の神学者たちの取り組みを紹介し、天地創造についてどのような理解を持つべきかを検討する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 創造論の論点(1) 創造の起源、無からの創造</p> <p>第3回 創造論の論点(2) 三位一体と創造、人間論</p> <p>第4回 創造論の論点(3) 創造と摂理、救済</p> <p>第5回 創造の起源について (バルト、パネンベルク、ティリッヒら)</p> <p>第6回 三位一体論的創造論(1) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合</p> <p>第7回 三位一体論的創造論(2) ユルゲン・モルトマンの場合</p> <p>第8回 三位一体論的創造論(3) コリン・ガントンの場合、その他</p> <p>第9回 中間総括</p> <p>第10回 創造と救済(1) 閉じられた創造論と開かれた創造論</p> <p>第11回 創造と救済(2) 様々な神学者の場合</p> <p>第12回 創造と人間(1) パネンベルク、モルトマンらの場合</p> <p>第13回 創造と人間(2) ロバート・ジェンソン、コリン・ガントンの場合</p> <p>第14回 創造論の現代的課題</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 特になし</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> レポートによって評価する</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講Ⅱ a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「キリスト教と諸宗教」の問題をめぐり、キリスト教の位置をどう示すべきか検討する</p>	
<p><授業の概要> 上記の目的のため、「キリスト教の絶対性」「宗教的寛容の神学」「宗教的多元主義の神学」という三大テーマを取り上げる。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、授業の全体的展望 2、「キリスト教の絶対性」の問題 3、E. トレルチにおける「キリスト教の最高妥当性」 4、「素朴な絶対性」の真理契機 5、「キリスト教の絶対性」という問題の総括 6、「宗教的寛容」の宗教的資源 7、J. ハーバーマスの「公共圏」における「宗教的理性」の復権 8、「宗教的寛容」の神学 9、「宗教的寛容」をめぐる総括 10、宗教的多元性の現実 11、「宗教的多元主義の神学」の誤謬 12、排他的福音の包括性 13、パネンベルクの誤りとモルトマンの誤り 14、聖書の普遍性と希望の命題 15、「キリスト教と諸宗教」の問題の総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 講義内容のテキストを配布する。</p>	
<p><参考書> トレルチ『キリスト教の絶対性と宗教史』; C. Schwöbel, Toleranz aus Glauben(2002); デコスタ編『キリスト教は他宗教をどう考えるか』など</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 三つのテーマのいずれかについて文献と取り組んだレポート（4000字程度）を求める</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講Ⅱb	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教義学序説の主題「啓示と聖書」を「なぜ啓示なのか」「聖書とは何か」の問いを深化させて扱う</p>	
<p><授業の概要> 啓示を「歴史的啓示」として、聖書を「証言としての聖書」として把握し、歴史的認識と霊的認識の相互関係・相互浸透の理解に努める</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、なぜ啓示か 2、啓示とは何か 3、啓示とその担い手 4、聖書と啓示 5、証言としての聖書 6、旧約聖書と新約聖書 7、「歴史のイエス」における啓示 8、「歴史のイエス」の言葉と神の国 9、「歴史のイエス」の業と神の国 10、「歴史のイエス」の十字架と復活 11、歴史的啓示における神の認識 12、歴史的な方法と神学的方法 13、啓示者イエスと啓示される神 14、啓示の認識としてのイエスの神性認識 15、全体の総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『啓示と三位一体』（教文館、2007年）</p>	
<p><参考書> バルト『教会教義学』1/1,1/2; パネンベルク他『歴史としての啓示』など。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 4000字程度のレポートによって、文献と取り組み、事柄の内容をどのように解したかを示すのによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習 I a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> A. マクグラスのテキストを手がかりに、伝統的なキリスト教の救済論を顧みつつ、現代における救済論の新たな展開の可能性を探る。</p>	
<p><授業の概要> 担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらった後、参加者全員で討論する。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画> 第1回 主題と探求方法についてオリエンテーションを行い、分担を決める。 第2回 『キリストの死と復活の意味』1章—2章の内容を検討する。 第3回 『キリストの死と復活の意味』3章—4章1節の内容を検討する。 第4回 『キリストの死と復活の意味』4章2節の内容を検討する。 第5回 『キリストの死と復活の意味』4章3節—4章5節の内容を検討する。 第6回 『キリストの死と復活の意味』5章—6章の内容を検討する。 第7回 『十字架の謎』1 の内容を検討する。 第8回 『十字架の謎』2 の内容を検討する。 第9回 『十字架の謎』3 の内容を検討する。 第10回 『十字架の謎』4 の内容を検討する。 第11回 『十字架の謎』5 の内容を検討する。 第12回 『十字架の謎』6 の内容を検討する。 第13回 『十字架の謎』7 の内容を検討する。 第14回 『十字架の謎』8 の内容を検討する。 第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> A. マクグラス『キリストの死と復活の意味』（いのちのこば社、1995年）ならびに同著『十字架の謎』（教文館、2003年）を各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習 I b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> ジェームズ・デニーの古典的なテキストを手がかりに、伝統的なキリスト教の救済論を顧みつつ、現代における救済論の新たな展開の可能性を探る。</p>	
<p><授業の概要> 担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画> 第1回 ジェームズ・デニーの贖罪論の特徴について導入的な考察をし、分担を決める。</p> <p>第2回 『キリスト教の和解論』 9－39頁の内容を検討する。</p> <p>第3回 『キリスト教の和解論』 41－70頁の内容を検討する。</p> <p>第4回 『キリスト教の和解論』 70－98頁の内容を検討する。</p> <p>第5回 『キリスト教の和解論』 98－126頁の内容を検討する。</p> <p>第6回 『キリスト教の和解論』 126－149頁の内容を検討する。</p> <p>第7回 『キリスト教の和解論』 151－178頁の内容を検討する。</p> <p>第8回 『キリスト教の和解論』 178－201頁の内容を検討する。</p> <p>第9回 『キリスト教の和解論』 202－228頁の内容を検討する。</p> <p>第10回 『キリスト教の和解論』 229－258頁の内容を検討する。</p> <p>第11回 『キリスト教の和解論』 258－286頁の内容を検討する。</p> <p>第12回 『キリスト教の和解論』 287－320頁の内容を検討する。</p> <p>第13回 『キリスト教の和解論』 320－352頁の内容を検討する。</p> <p>第14回 『キリスト教の和解論』 353－407頁の内容を検討する。</p> <p>第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> J.デニー『キリスト教の和解論』（J.デニー著作集第4巻、一麦出版社、2008年）を各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱ a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。</p>	
<p><授業の概要> バルトの『教会教義学』から創造論中の「神と虚無的なもの」(50節)を学ぶ。悪の实在の問題を扱っているテキストの内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テキスト、3～15頁 (1. 虚無的なもの問題) 3. 同、16～28頁 (2. 虚無的なもの誤認) 4. 同、29～43頁 (3. 虚無的なもの認識①) 5. 同、43～50頁 (同②) 6. 同、50～65頁 (同③) 7. 同、66～83頁 (同④) 8. 同、83～94頁 (同⑤) 9. 同、94～111頁 (同⑥) 10. 同、112～124頁 (同⑦) 11. 同、125～136頁 (4. 虚無的なもの实在①) 12. 同、136～148頁 (同②) 13. 同、149～157頁 (同③) 14. 同157～163頁 (同④) 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅲ／2 創造者とその被造物〈下〉』、吉永正義訳(新教出版社、オンデマンド)、3～163頁。</p>	
<p><参考書> 授業の中で適宜、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度および小課題による。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
信条学	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 専攻に関係なく登録可。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って、信条の神学を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 最初は古代教会の基本信条を取り上げ、次いで宗教改革期の代表的な信条を顧みる。なお授業の後半でロールスのテキストの各項目を一つずつ読み、実際に信条本文に触れながら、その神学的意味を考える。</p>	
<p><履修条件> 大学院博士課程前期・後期に在籍している者は誰でも履修できる。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：信条・信仰告白とは何かを押さえた上で、使徒信条を学ぶ。</p> <p>第2回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「啓示、神の言葉、伝統」の項目を読む。</p> <p>第3回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「神の本性と三位一体論」の項目を読む。</p> <p>第4回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスのテキスト「創造と摂理」の項目を読む。</p> <p>第5回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスのテキスト「人間と罪」の項目を読む。</p> <p>第6回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「恵みの契約と和解」の項目を読む。</p> <p>第7回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。</p> <p>第8回：フランス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「義認と信仰」の項目を読む。</p> <p>第9回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖化と悔改め」の項目を読む。</p> <p>第10回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「選びと棄却」の項目を読む。</p> <p>第11回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「教会とそのしるし」の項目を読む。</p> <p>第12回：ドルト信仰規準を学ぶ。またロールスのテキスト「御言葉と聖礼典」の項目を読む。</p> <p>第13回：ウェストミンスター信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「神の言葉の二様態」の項目を読む。</p> <p>第14回：バルメン宣言を学ぶ。またロールスのテキスト「洗礼」の項目を読む。</p> <p>第15回：日本基督教団信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖餐」の項目を読む。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってその時の信条テキストに目を通しておくことよい。教室で渡す資料をよく整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 『信条集 前後篇』新教出版社、1994年。各自購入すること。またJ・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、2009年。研究室にて割引価格で頒布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での発表、レポートを総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学 I	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻で組織神学もしくは実践神学で2017年度に修士論文提出を希望する者。
<授業の到達目標及びテーマ> 修士論文を執筆するための準備をする。	
<授業の概要> 学術論文を執筆するためのガイダンスを行いながら、各自のテーマの設定、問題意識の明確化、主要文献の確定、二次資料の収集、文献の読解とその報告を順次行う。	
<履修条件> 狭義の組織神学もしくは実践神学の分野で、2017年度に修士論文を提出しようとする者。	
<授業計画> 第1回：組織神学の修士論文を執筆するためのガイダンスを行う。 第2回：卒論の書き方（レポートと卒論）。修士論文計画書に基づく関心と問題意識の提示（1） 第3回：卒論の書き方（年間計画）。修士論文計画書に基づく関心と問題意識の提示（2） 第4回：卒論の書き方（批判的な読み方）。修士論文計画書に基づく関心と問題意識の提示（3） 第5回：卒論の書き方（議論の仕方）。主要文献および二次資料の確定と収集（1） 第6回：卒論の書き方（論文の決まり）。主要文献および二次資料の確定と収集（2） 第7回：卒論の書き方（論理的な書き方）。主要文献および二次資料の確定と収集（3） 第8回：卒論の書き方（文献はなせ必要か）。基本文献の読書レポート・中間報告（A1） 第9回：卒論の書き方（文献の探し方）。基本文献の読書レポート・中間報告（A2） 第10回：卒論の書き方（先行研究の読み方）。基本文献の読書レポート・中間報告（A3） 第11回：卒論の書き方（行き詰まった時）。基本文献の読書レポート・中間報告（B1） 第12回：卒論の書き方（構成の仕方）。基本文献の読書レポート・中間報告（B2） 第13回：卒論の書き方（吟味の仕方）。基本文献の読書レポート・中間報告（B2） 第14回：これまでの見直しと今後の見直し（1） 第15回：これまでの見直しと今後の見直し（2）	
<準備学習等の指示> 図書館書庫に入って、文献を渉猟し、また先行研究（修士論文）をよく参考にすること。	
<テキスト> 授業の中で資料を配付する。	
<参考書> 特になし	
<学生に対する評価（方法・基準）> 中間発表の内容および作業の進み具合を評価する。	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻で組織神学もしくは実践神学で2016年度に修士論文提出を希望する者。
<授業の到達目標及びテーマ> 修士論文を執筆し、期日までに完成させる。	
<授業の概要> 論文の構成を勘案して目次を作成しながら、順番に進捗状況を報告してもらい、問題点を適宜指摘し、必要なアドバイスを行い、討論する。	
<履修条件> 狭義の組織神学もしくは実践神学の分野で、2016年度に修士論文を提出しようとする者。	
<授業計画> 第1回：進捗状況と今後の見通し（1） 第2回：進捗状況と今後の見通し（2） 第3回：進捗状況と今後の見通し（3） 第4回：A段階・中間発表（1） 第5回：A段階・中間発表（2） 第6回：A段階・中間発表（3） 第7回：B段階・中間発表（1） 第8回：B段階・中間発表（2） 第9回：B段階・中間発表（3） 第10回：C段階・中間発表（1） 第11回：C段階・中間発表（2） 第12回：C段階・中間発表（3） 第13回：D段階・最終発表（1） 第14回：D段階・最終発表（2） 第15回：D段階・最終発表（3）	
<準備学習等の指示> 指導教授の指示をよく仰ぐこと。	
<テキスト> 特になし	
<参考書> 特になし	
<学生に対する評価（方法・基準）> 中間発表の内容および作業の進み具合を評価する。論文の提出をもって終了する。	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件>組織神学分野専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>「洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コースの紹介。履修者との導入討議。</p> <p>第2回：発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名）</p> <p>第3回：発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名）</p> <p>第4回：資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書）</p> <p>第5回：資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン）</p> <p>第6回：資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他）</p> <p>第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」）</p> <p>第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」）</p> <p>第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他）</p> <p>第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言）</p> <p>第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など）</p> <p>第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」）</p> <p>第13回：資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J.ウェスレーと「宗教箇条」）</p> <p>第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革―長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他）</p> <p>第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E.マクグラス『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰めで25枚以内）</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>「洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コース紹介。履修者との導入討議。 第2回：発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名） 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回：資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回：資料研究（二） 同上 2（トマス・アクィナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回：資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など） 第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第13回：資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革―長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E.マクグラース『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰め25枚以内）</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習Ⅱ a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 通年で履修することが望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> 「英米日・福音主義の歴史—神学・信仰復興・教会形成」。英米日の教会関係史のコンテキストにおいて、17世紀～20世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学の第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深める。	
<授業の概要> 前期では、最初に日本の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を確立し、17～19世紀前半（1650-1860）までの英米のピューリタニズム移植、第一次、第二次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について講義と史料分析を行う。	
<履修条件> 現代・近代プロテスタント神学思想の基本的な知識、あるいは英米教会史・神学思想史などへのある程度の関心と素養が必要である。	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コース紹介。導入講義：日本の「福音主義」「福音主義の歴史」研究の批評(佐藤敏、古屋、青木他)</p> <p>第2回：講義（一）：アメリカ教会史と神学思想史論の吟味：F. ボンヘッファー、W. G. マックラクリン他。</p> <p>第3回：史料分析（一）：17～18世紀「ピューリタン大覚醒」（T. フッカー）と英国メソジズム（ウェスレー）</p> <p>第4回：講義（二）：18世紀北米における「第一次大覚醒運動」（1730～1760）植民地時代の三大教派の出現</p> <p>第5回：史料分析（二）：J. エドワーズ（1）：「[ニューイングランド信仰復興の] 忠実な報告」</p> <p>第6回：史料分析（三）：J. エドワーズ（2）：「信仰復興についての幾つかの考察」</p> <p>第7回：講義（三）：18世紀北米のメソジズム神学、信仰復興、教会形成：A. クラーク、N. バングス</p> <p>第8回：講義（四）：19世紀前半の「第二次大覚醒運動」（1800～1830）開拓時代の三大教派成長（ベアード）</p> <p>第9回：史料分析（四）：19世紀前半の新派カルヴァン主義神学の誕生：N. W. テイラー、L. ビーチャー</p> <p>第10回：史料分析（五）：C. G. フィニー（1）：回心についての説教、「組織神学」から</p> <p>第11回：史料分析（六）：C. G. フィニー（2）：「宗教の復興とは何か？」</p> <p>第12回：史料分析（七）：長老派内の新派カルヴァン主義：A. バーンズ 「救いの道」</p> <p>第13回：史料分析（五）：メソジストの神学、信仰復興、教会形成：P. カートライト、D. D. ウィードン</p> <p>第14回：講義（五）：幕末開国期日本：改革派-長老派-会衆派型およびメソジスト型「二つの福音」問題</p> <p>第15回：講義（六）：若き植村正久、本多庸一：福音主義神学、信仰復興、教会形成。FD実施。</p>	
<準備学習等の指示> テキストの予習と復習が大切である。	
<p><テキスト></p> <p>①W. G. Mcloughlin, <i>The American Evangelicals, 1800-1900</i>, Harper and Low, 1968(コピー本で配布) . ② D. A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i>, Baker, 2005. (部分的にコピー資料として配布).</p>	
<p><参考書> 1. 授業における積極的な討論や質疑応答への参加を重視する。また期末には、以下の要件を満たす研究レポートを作成し提出すること。</p> <p>2. 前期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成せよ。分量は400字詰め原稿用紙に換算して20-25枚以内。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 授業における積極的な討論や質疑応答への参加を重視する。期末には、以下の要件を満たす研究レポートを作成し提出すること。</p> <p>2. 前期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成せよ。分量は400字詰め原稿用紙に換算して20-25枚以内。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習Ⅱ b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 通年で履修することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英米日・福音主義の歴史―神学・信仰復興・教会形成」。英米日の教会関係史のコンテキストにおいて、17世紀～20世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学の第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深める。</p>	
<p><授業の概要> 前期では、最初に日本の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を確立し、17～19世紀前半（1650-1860）までの英米のピューリタニズム移植、第一次、第二次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について講義と史料分析を行う。</p>	
<p><履修条件> 前期に同じ。</p>	
<p><授業計画> 第1回：コースの紹介。講義（一）「マックラクリンの北米大覚醒運動史」のおさらい 第2回：講義（二）：19世紀後半の北米神学の諸相：H. W. ビーチャー、H. ブッシュネル、P. ブルックス 第3回：史料分析（一）：19世紀後半の「第三次大覚醒運動」（1890～1920）「都市の信仰復興」（J. ストロング） 第4回：史料分析（二）：D. L. ムーディー(1)：ムーディーの諸説教にみる福音主義神学と教会 第5回：史料分析（三）：D.L. ムーディー(2)：彼の信仰復興論「教会に行かぬ人に福音をどう届けるか？」 第6回：史料分析（四）：S.P. ジョーンズ：説教「個人的な聖別：『あなたの卑しさを放棄せよ』」 第7回：講義（三）：20世紀初頭の日本の「大挙伝道」および「神の国」運動：植村正久および賀川豊彦 第8回：講義（四）：20世紀前半の第一次世界大戦後の北米の「近代主義」対「根本主義」論争 第9回：史料分析（五）：上記論争に関する第一次史料 第10回：講義（五）：20世紀後半の「第四次大覚醒〔戦後信仰復興〕運動」（1960～1990?） 第11回：史料分析（六）：ビリー・グラハム（1） 第12回：史料分析（七）：ビリー・グラハム（2） 第13回：講義（六）：第二次世界大戦後日本における「戦後信仰復興運動」の神学、信仰復興、教会形成。 第14回：講義（七）：1980年代後の英米日の福音主義諸派の動向：北米の「宗教的右派」、「福音派」の動向。 第15回：総合討論：通年の学びからみた「福音主義」とその歴史の総括。FD実施。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前期に同じ。</p>	
<p><テキスト> ①W. G. Mcloughlin, <i>The American Evangelicals, 1800-1900</i>, Harper and Low, 1968(コピー本で配布) . ②D. A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i>, Baker, 2005. (部分的にコピー資料として配布).</p>	
<p><参考書> ① S. E. オールストローム『アメリカ神学思想史入門』（教文館、1990）。②青木保憲『アメリカ福音派の歴史』（明石書房、2013）。③Mcloughlin, <i>Modern Revivalism</i>, Wifp and Stock, 2004. ④S. Ahlstrom, <i>Theology in America</i>, Hackett Publ. com., 1967;2003. ④棚村重行『二つの福音は波濤を越えて』（教文館、2009）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 授業における積極的な討論や質疑応答への参加を重視する。期末には、以下の要件を満たす研究レポートを作成し提出すること。 2. 前期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成せよ。分量は400字詰め原稿用紙に換算して20-25枚以内。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講 I a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> 古代教会におけるキリスト論と三位一体論の形成と展開を学ぶ。前期には、使徒教父からアレキサンドリア学派までを扱う。また古代キリスト教と哲学の関係についても講義する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：使徒教父に見られるキリスト論の特色及び三位一体論の萌芽的な言及を概観する。 第2回：ユステイノス『第一弁明』に見られるロゴス・キリスト論の特色について。 第3回：弁証家に見られる三位一体論の萌芽。祈りの法則と信仰の法則の関係。 第4回：反グノーシスの教父のキリスト論と三位一体論①エイレナイオス 第5回：反グノーシスの教父のキリスト論と三位一体論②テルトゥリアヌス 第6回：グノーシス主義とキリスト教教理の展開 第7回：モナルキアニズムの実像 第8回：モンタニズムの実像と三位一体論形成への影響再考 第9回：古代教会における聖餐と洗礼と三位一体論 第10回：アレキサンドリア学派の神学の特色 第11回：アレキサンドリアのクレメンスのキリスト論と三位一体論 第12回：オリゲネス『諸原理について』のキリスト論と三位一体論 第13回：聖霊の神学の形成と展開 第14回：中期プラトン主義の影響と三位一体論 第15回：全体に関わる質疑応答とディスカッション。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教理史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> ケリー『初期キリスト教教理史上』（一麦出版社、2500円）</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、スティッド『古代キリスト教と哲学』（教文館）、その他は、都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と小論文（400字×15枚）</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講 I b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> 古代教会におけるキリスト論と三位一体論の形成と展開を学ぶ。ニカイアの教父からアウグスティヌスまでを後期は扱う。また古代キリスト教と哲学の関係についても講義する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 第1回：ニカイア会議に至る道概観 第2回：アレイオス論争とアレイオスの思想 第3回：4世紀初頭のアレキサンドリアの現状とエウセビオスの政治神学概観 第4回：アタナシオスと教会 第5回：アタナシオス神学の特色とキリスト論 第6回：初期修道制と教理論争 第7回：ヒラリウス『三位一体論』と西方における三位一体論 第8回：カパドキアの三教父の生涯と神学 第9回：バシレイオス『聖霊論』を読む 第10回：ナジアンゾスのグレゴリオス『神学講話』を読む 第11回：カパドキア教父の後期アレイオス主義 第12回：アウグスティヌスの生涯と神学形成 第13回：アウグスティヌス神学の特色 第14回：アウグスティヌス『三位一体論』を読む。 第15回：全体のまとめと質疑。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教理史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> ケリー『初期キリスト教教理史下』（一麦出版社、2500円）、スティッド『古代キリスト教と哲学』（教文館）、その他は、その都度指示する。</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と小論文（400字×15枚）</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学 I	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 修士論文作成のための訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を確認した上で、修士論文の作成指導を行う。</p>	
<p><授業の概要> 歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねる。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一次史料の読み方：史料の読解 2 一次史料の分析 3 二次史料の読み方：歴史神学の学術論文の読解 4 二次史料の分析 5 論文の構想 6 論文の表現方法 7 参考文献と注 8 修士論文の中間発表：主題の提示 9 修士論文の中間発表：全体の構成 10 修士論文の中間発表：主題の展開 11 修士論文の中間発表：校正と注 12 歴史神学論文の特色 13 修士論文をめぐる討議：史料の読解と扱い 14 修士論文をめぐる討議：構成と表現 15 総括とまとめ 	
<p><準備学習等の指示> N. Cantor, How to Study History を復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 特に定めない。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献、発表、小論文</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>修士論文作成のための基礎知識の習得と訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を身につけることを目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねるとともに、研究を深める。Cantor, How to Study History を読みながら、歴史神学の論文作成の方法を学ぶ。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>I 歴史神学の論文を書くための基礎作業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史神学とは テキスト発表① A Matter of Definition 2 一次史料と二次史料 テキスト発表② The Materials of History 3 一次史料を読む テキスト発表③ How to Use Primary Sources i 4 一次史料を読む テキスト発表④ How to Use Primary Sources ii 5 二次史料を読む テキスト発表⑤ How to Read Secondary Sources i 6 二次史料を読む テキスト発表⑥ How to Read Secondary Sources ii 7 歴史神学論文を読む テキスト発表⑦ A Practical Lesson in How to Read a History Book i 8 歴史神学論文を読む テキスト発表⑧ A Practical Lesson in How to Read a History Book ii <p>II 修士論文作成の準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 作成の注意と準備 10 論文の計画と執筆、注のつけ方 11 論文計画発表① 12 論文計画発表② 13 論文計画発表③ 14 ディカッション 15 まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>学部演習のテキストを読みなおして、復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Norman Cantor, How to Study History 関川が準備する。</p>	
<p><参考書></p> <p>その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスでの貢献、発表、小論文</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特講 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>宗教改革後の正統主義派に抗して起こった敬虔主義運動の中に、理論と実践における優れた教育的貢献を見ることができる。近代教育の創始者といわれるモラヴィア派のコメニウスはそこから排出された。それらの経緯と内的関連を考察する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>敬虔主義運動の中心に立つモラヴィア兄弟団とそこから多大な影響を受けたジョン・ウェスレーの神学思想の特徴を見、それが必然的に教育的展開をもち、日曜学校運動へと繋がることを跡づけ、確認していく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 敬虔主義と教育一序説 2. ドイツ敬虔主義の創始者 Ph. J. シュペーナーの主張 3. A.H.フランケのキリスト教的人間形成理論 4. N.L.ツィンツェンドルフによる継承と発展一神学と教育一 5. 教育史におけるモラヴィア派の意義一ヘルンフト居住とその後一 6. J.ウェスレーとモラヴィア派一出会いとイギリス帰国後の活動一 7. フランケとウェスレーにおける聖化の強調、「キリスト者の完全」 8. モラヴィア派との訣別一ツィンツェンドルフとの対話一 9. J.ウェスレーにおける義認と聖化 10. J.ウェスレーのキリスト教教育論 11. J.ウェスレーとキングスウッド・スクール一当時の宗教教育状況一 12. J.ウェスレーと日曜学校運動 13. アメリカ・メソジスト監督教会の日曜学校運動一初期 14. アメリカ・メソジスト監督教会の日曜学校運動一組織的発展 15. 全体的考察一総括一 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>毎回の授業の前半に、受講生が順次発表するが、非発表者も次回扱うテキスト箇所を事前に読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>青山学院大学キリスト教文化研究センター篇、『ジョン・ウェスレーと教育』、ヨルダン社、1999年。各自購入しておくこと。購入困難な場合は、担当講師が調達する。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業時に随時、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業数の2/3以上の出席を前提として、各自の発表と毎回の授業参加度、およびレポート（4000字、参考文献1冊以上を列挙、利用すること）提出を評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
実践神学演習 a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件> 学期ごとの履修も可
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>前期はボーレン『神が美しくなられるために』をテキストとして、神学としての実践神学を構築するための基礎について考察する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>毎回担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で、日本の教会のための実践神学構築と関連づけながら討論する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 第1章 第1節 課題</p> <p>第2回 第2節 関係する実践諸領域について</p> <p>第3回 第2章 第1節 聖霊論の地平</p> <p>第4回 第2節 三位一体論の意味</p> <p>第5回 第3、4節 神律的相互関係</p> <p>第6回 第5節 賜物としての霊</p> <p>第7回 第3章 第1節 (1) 創造のわざにおいて</p> <p>第8回 (2) 文化と芸術において</p> <p>第9回 (3)、(4) 歴史と教会において</p> <p>第10回 第2節 知覚としての神学的美学</p> <p>第11回 第3節 形成としての神学的美学</p> <p>第12回 第4節 芸術としての教会</p> <p>第13回 第4章 第1、2節 実践神学とその問題</p> <p>第14回 第3節 シュライアマハーの遺産</p> <p>第15回 第5章 第1節 芸術・学問としての神学</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>R. ボーレン『神が美しくなられるために』教文館</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>発表、討論への参加、期末レポートによって評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
実践神学演習 b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 学期ごとの履修も可
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>後期は牧会学を取り上げ、Ch. V. ガーキン『牧会学入門』をテキストとして、牧会について神学的に学び、日本の教会での展開について考察する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>毎回担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で、日本の教会での牧会とかんれづけながら討論する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション、聖書の牧会</p> <p>第2回 第1章 牧会史</p> <p>第3回 第2章 20世紀の牧会</p> <p>第4回 第3章 牧会における新たな方向</p> <p>第5回 第4章 私たちの人生とキリスト教の物語</p> <p>第6回 牧会の歴史と新しい方向</p> <p>第7回 第5章 「解釈上のリーダーシップ」としての牧会</p> <p>第8回 第6章 多様な共同体が存在する世界の中でのキリスト者の共同体</p> <p>第9回 牧会とは何か</p> <p>第10回 第7章 幼少期と牧会</p> <p>第11回 第8章 思春期と牧会</p> <p>第12回 第9章 壮年期と牧会</p> <p>第13回 第10章 高齢期と牧会</p> <p>第14回 第11章 牧会と人生の儚さ</p> <p>第15回 牧会の実践とライフサイクル</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>チャールズ V. ガーキン『牧会学入門』日本キリスト教団出版局</p>	
<p><参考書></p> <p>E. トゥルナイゼン『牧会学 I』日本基督教団出版局（オンデマンド）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>発表、討論への参加、期末レポートによって評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 a	W. ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。</p>	
<p><授業計画> ＊オリエンテーション ＊院長による精神病理の講義。病院見学。 ＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 ＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 ＊各学生によるケース提出とディスカッションを行う。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<テキスト>	
<参考書>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。</p>	
<p><授業計画> *各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 *面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 *各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<テキスト>	
<参考書>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。</p>	

専攻間共同科目	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>キリスト教は学問理論として研究・考察され得るが、何よりも歴史の中に働く神の啓示たるイエス・キリストの福音の力として、実践的行為において存続する。それは、キリスト共同体形成と福音伝道の形をとる。この福音伝道を理論的、歴史的に考察し、それを特にアジア的文脈において行うことを目指す。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>今回は、アジア諸国のキリスト教宗教一般を扱わず、一国を選び、その国の歴史と文化におけるキリスト教受容のプロセスを考察していく。日本と中国の間に位置する韓国のキリスト教を共に学んでいく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： アジアにおけるキリスト教—文化的、伝道論的視点から</p> <p>第2回： 初期におけるキリスト教との接触</p> <p>第3回： ネストリウス派キリスト教（景教）の足跡</p> <p>第4回： 韓国におけるローマ・カトリックの宣教</p> <p>第5回： プロテスタント宣教と韓国人</p> <p>第6回： プロテスタント宣教の始まり</p> <p>第7回： 近代啓蒙運動とキリスト教伝道</p> <p>第8回： 教会設立と民族運動</p> <p>第9回： 十字架の下なる教会</p> <p>第10回： 分派活動とエキュメニカル運動</p> <p>第11回： 宗教と神社問題</p> <p>第12回： 第二次世界大戦後の推移—教会再建と分裂</p> <p>第13回： 1960 代までの宗教状況</p> <p>第14回： 1960 年代後半から今日まで</p> <p>第15回： 今後の展望</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義もするが、受講者はできるだけ一度はテーマに従って発表していただく。次週授業で扱うテキスト箇所は皆が事前に読んで予備知識をもち、議論に参加できるよう心がけること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>土肥昭夫、他 共著、『アジア・キリスト教史』[1]、教文館</p>	
<p><参考書></p> <p>日本基督教団出版局編、『アジア・キリスト教の歴史』、1991年</p> <p>関庚培（金忠一訳）、『韓国キリスト教会史』、新教出版社、1981年</p> <p>H.G. アンダーウッド（韓哲儀訳、『朝鮮の呼び声』、未来社、1976年</p> <p>柳東植（澤、金 共訳）、『韓国キリスト教 神学思想史』、教文館、1986年</p> <p>澤正彦、『未完 朝鮮キリスト教史』、日本基督教団出版局、1991年、その他</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業の中で行う発表、意見・質問等の参加度、および最後授業までに提出すべきレポートによって、総合的に評価する。出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習 I	小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 説教学の基本を学び、説教作成の方法を身につける。</p>	
<p><授業の概要> 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 説教学の課題 第2回 説教と聖書、作成（1）説教テキストの朗読 第3回 黙想とは何か、作成（2）第一の黙想 第4回 釈義と説教準備、作成（3）テキストの本文批評と私訳 第5回 歴史的方法と正典、礼拝における「聖書」、作成（3）テキストの釈義 第6回 釈義とは何か、「解釈と適用」の問題 第7回 説教黙想とは何か、作成（4）説教黙想 第8回 釈義と教理、説教と教義学 第9回 説教における説教者 第10回 会衆をめぐる黙想 第11回 キリストの物語とわたしたちの生活 第12回 説教と救済史、終末をめぐる黙想、作成（5）説教黙想の改訂 第13回 説教の構造と構成 第14回 説教の始め方と終わり方、作成（6）説教原稿の作成 第15回 説教の演述</p>	
<p><準備学習等の指示> 聖書全巻の通読しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> テーマごとに教室で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。遅れて提出することは認められないので、その都度必ず提出すること。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅱ	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 説教学演習Ⅰを履修済み(予定)
<授業の到達目標及びテーマ> 説教学の基本を学び、実際になされた説教を分析する方法を身につける。	
<授業の概要> 説教分析の方法論を明確にし、実際になされた説教を取り上げて、説教分析に実際に取り組む。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 会衆席の説教学</p> <p>第2回 分析(1) 植村正久の説教を読む</p> <p>第3回 説教分析論：なぜ説教を分析するのか</p> <p>第4回 分析(2) 渡邊善太の説教を読む</p> <p>第5回 印象批評と第一印象論</p> <p>第6回 分析(3) 竹森満佐一の説教を読む</p> <p>第7回 説教の構造と構成をめぐる問題</p> <p>第8回 分析(4) 加藤常昭の説教を読む</p> <p>第9回 説教における説教者をめぐる問題</p> <p>第10回 分析(5) カール・バルトの説教を読む</p> <p>第11回 説教における聞き手をめぐる問題</p> <p>第12回 分析(6) パウル・ティリッヒの説教を読む</p> <p>第13回 説教と聖書テキストをめぐる問題</p> <p>第14回 分析(7) マルティン・ルーサー・キングの説教を読む</p> <p>第15回 説教における神の名</p>	
<準備学習等の指示> 聖書全巻の通読を続けること。配布される論文、説教を十分読んで準備すること。	
<テキスト> 論文、説教などを教室で配布する。	
<参考書> R. ボーレン『説教学Ⅰ』『同Ⅱ』日本キリスト教団出版局、1977年、1978年。 加藤常昭『説教批判・説教分析』教文館、2008年。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 発表と授業への参加度、レポートによって評価する。	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅲ	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>修士論文を提出し、卒業に備えている者
<p><授業の到達目標及びテーマ> テキストの釈義から黙想を経て説教を準備し、実際に説教するに至るまでの過程を体験することにより、説教者として立つための基本的な訓練を行う。</p>	
<p><授業の概要> 担当者を決め、指定された聖書テキストに従って説教を準備し、説教してもらう。また説教批評を共有することで、説教者としての自己吟味の能力をも養う。</p>	
<p><履修条件> 修士論文を提出し、受理されて、博士課程前期課程修了見込みである者。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 説教とは何かを考えながら、テキストの釈義、黙想、構成について考察する。</p> <p>第2回 マタイによる福音書 18：21－35</p> <p>第3回 マルコによる福音書 9：14－29</p> <p>第4回 ルカによる福音書 10：38－42</p> <p>第5回 ヨハネによる福音書 7：53－8：11</p> <p>第6回 ローマの信徒への手紙 12：1－2</p> <p>第7回 コリントの信徒への手紙二 12：1－10</p> <p>第8回 コロサイの信徒への手紙 3：1－11</p> <p>第9回 ペトロの手紙一 2：1－10</p> <p>第10回 中間的考察（教職セミナー）</p> <p>第11回 申命記 7：6－8</p> <p>第12回 詩編 121：1－8</p> <p>第13回 イザヤ書 55：1－7</p> <p>第14回 エゼキエル書 36：25－36</p> <p>第15回 総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 担当箇所を準備を入念にすること。また他の人の説教を聞いて、適切な批評をし、共に学び合うこと。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書</p>	
<p><参考書> 該当箇所の注解書、黙想集、説教集</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 説教の内容と語り方全体が問われる。またコメンテーターとしての説教批評も重視される。最後にレポートを提出してもらう。</p>	

実践神学研修課程	
礼拝学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2017年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業の到達目標及びテーマ> 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。	
<授業の概要> 主日礼拝を初めとして、その他の諸礼拝、結婚式、葬儀などの祈りの形式について、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 礼拝学的思考の特質について 第2回 宗教改革の礼拝 第3回 典礼の刷新、東方教会の奉神礼 第4回 現代の礼拝、礼拝改革 第5回 礼拝式と祈祷 第6回 礼拝式文の位置と使い方 第7回 賛美、礼拝音楽 第8回 洗礼式、幼児洗礼と幼児祝福 第9回 聖餐礼典 第10回 結婚式・婚約式 第11回 葬儀 第12回 信徒の礼拝奉仕 第13回 礼拝堂 第14回 教会暦と聖書日課 第15回 教会学校の礼拝</p>	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<参考書> 由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011年 W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館、1998年（オンデマンド） その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

実践神学研修課程	
牧会学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2017年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業の到達目標及びテーマ> 実践神学を牧師学としてとらえ、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。	
<授業の概要> 牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取り上げ、参加者の発表を通して必要な知識と方法を身につける。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 牧師学としての実践神学 第2回 召命と准允、按手 第3回 「牧師職」、赴任と離任、招聘制度と牧会 第4回 教会でのふるまい、人間関係 第5回 結婚と離婚、同性愛 第6回 キリスト者の家庭と信仰の継承 第7回 病者の牧会 第8回 高齢者の牧会 第9回 葬儀とその周辺 第10回 告解・面談・訪問 第11回 洗礼への導きと受洗準備、受洗後教育 第12回 聖餐と牧会 第13回 教会戒規 第14回 教会会議（教会総会、役員会）と議長職 第15回 全体教会と個教会、教会の制度</p>	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<p><参考書></p> <p>E. トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』日本基督教団出版局、1961、1970年（オンデマンド） ウィリアム・ウィリモン『牧師』新教出版社、2007年 その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。</p>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

実践神学研修課程	
総合特別講義	朴 憲郁
後期・4単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2017年4月に教会・学校に赴任する意志の明確な者
<授業の到達目標及びテーマ> 牧会・伝道上直面する問題、課題に適切に対応していくために必要な学びである。	
<授業の概要> その分野の専門家が、テーマごとの講義を行うオムニバス形式の総合講義である。	
<履修条件> 原則として全回出席すること。	
<授業計画> 第1回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝前史 第2回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝合同神学校以後 第3回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争前） 第4回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争後） 第5回：長山信夫講師「日本基督教団史」教団史と紛争史の視点 第6回：長山信夫講師「日本基督教団史」「教団紛争」とは何であったか？ 第7回：大住雄一教授「日本基督教団教憲・教規」 第8回：大住雄一教授「各教会規則・宗教法人規則」 第9回：川島隆一講師「部落解放とキリスト教Ⅰ」 第10回：川島隆一講師「部落解放とキリスト教Ⅱ」 第11回：小島誠志講師「地方伝道」 第12回：小島誠志講師「地方伝道」 第13回：岩田昌路講師「青年伝道」 第14回：岩田昌路講師「青年伝道」 第15回：本間義信講師「刑務所伝道」 第16回：本間義信講師「刑務所伝道」 第17回：春原禎光講師「ITと伝道」 第18回：春原禎光講師「ITと伝道」 第19回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第20回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第21回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第22回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第23回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第24回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第25回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第26回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第27回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第28回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第29回：棚村重行特任教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第30回：棚村重行特任教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第31回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第32回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第33回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」 第34回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」 ※講師は予定。当該年度に決定する。	
<準備学習等の指示> 日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」に目を通しておくこと。	
<テキスト> 「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」等、講師がその都度指示する。	
<参考書> 担当教授、講師が講義の中で紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 教職セミナーを含む毎回の講義の出席を評価の前提とする。また、牧会にあたってどういうことが有益であり、学習したかを学年末に2000字以内にまとめて提出する。そして、その末尾に今後の総合講義に対する意見を一言述べること。	